



No.302

釧路教育研究所

令和2年 12月



「釧路教育研究所に期待すること」

北海道教育庁釧路教育局長 川端 雄一

釧路教育研究所におかれましては、長年にわたり、授業研究を中心に組織的・継続的に研究を積み重ねられ、教員として必要な資質・能力の向上に関する講座や管内の教育課題に対応した講座の開設など、管内教育の充実・発展に寄与されてこられましたことに心から敬意を表します。

さて、現在、人工知能などの先端技術が社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが劇的に変わる中、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、その変化は加速度を増し、複雑で予測困難な状況となっております。

このような時代の中にあって、学校教育においては、子どもたちが自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協力しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、読解力や表現力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し答えを生み出す力などの資質・能力を育成することが求められております。

こうしたことから、各学校においては、子どもたちに、目の前で起きている事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得できる答えを見付け出すことなど、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせることが重要です。そのため、教え導く立場である教職員は、学校教育の変化を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、常に探究心をもちつつ自律的かつ継続的に新しい知識や技能を学び続けることが大切です。

このような状況において、貴研究所におかれましては、今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大により年度当初の計画が推進できないなどの苦労を抱えながらも、学校現場のニーズに応える取組の推進に向け、調査研究部を立ち上げ管内の教育課題について調査・研究を行うとともに、その成果をホームページや所報を活用しながら還元していることは誠に心強い限りであり、今後とも、教職員の専門性と指導力の向上を担う研修・研究機関として、釧路の教育を力強く牽引していただけるものと大いに期待しております。

釧路教育局といたしましても、貴研究所との連携を一層密にしながら、教職員の資質・能力の向上等に取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、釧路教育研究所のますますの御発展と関係各位の御健勝を祈念申し上げ、所報発行に寄せる言葉とさせていただきます。

釧路管内各町村の公開研究会の紹介①

今年度はコロナ禍にあって、なかなか校外での研修の機会が例年のように行えない状況が続きました。釧研では、3密対応等を図りながら、釧路管内各町村で行われた公開研究会を何校か取材し、公開研の取組や様子等について掲載します。

○釧路町立別保中学校（令和2年10月14日公開）

研究主題：「学びに向かう力」を育む授業実践（改善）の在り方

～確かな学力を養うプロセスの工夫を通して～

別保中学校では、確かな学力の定着を図るための授業改善を図るため、学習プロセスを見直し、授業実践を重ねています。今年度は特に「振り返り」の場面を中心に研修を進めています。

公開授業は授業の根幹である「導入」「展開」「終末」それぞれの役割を明確にした数学科の授業でした。コロナ禍のため、参加者は別室でモニターを通して授業を参観しましたが、カメラワークが生き、生徒の学習の様子が確実に伝わる形態でした。

【導入】…学習課題の明確化と効果的な掲示

○ICTを有効活用し、生徒が学習内容に対して意欲を持って、取り組むことができていた。

- 補助線を引く発想を提示することで、様々な考え方を促すことができていた。
- 終末においても、ICTが生かされていた。

【展開】…試行錯誤をしながら問題解決に向かう学習の場の設定

○本時の学習課題に「いろいろな方法」というワードを入れることで、生徒は既習事項を生かしながら多くの考え方を導き出そうと努力していた。

○ある生徒が他の生徒の考えを説明するなど、学習活動への工夫が随所に見られた。また、それに対する教師の言葉かけが良く、生徒の学習に対する自己肯定感が高まる様子が見られた。

【終末】…課題に正対し、次時や家庭学習へつなげるまとめ

○1単位時間におけるタイムマネジメントがしっかりとされており、練習問題の時間も確保されていた。

○授業の内容から家庭学習。家庭学習から次時の授業へという結びつきが意識されていた。



別保中学校では、教科等横断的に活用できる学習モデルや学習ツールとして、別保小学校との縦のつながりと、各教科等の横のつながりを考え、「別保中学校版交流のポイント」を作成しています。小学校で積み上げてきた力を生かし、それをさらに伸ばしていくことをねらいとしています。

○釧路町立富原小学校（令和2年11月20日公開）

研究主題：自己を高めていく子どもの育成

～互いを認め合って学び合う授業づくり～

富原小学校では、自己を高めていく子どもの育成を目標に掲げ、教科カリキュラムデザインを意識し、「互いを認め合って学び合う授業」を基盤としながら授業実践を重ねています。今回の公開研究会では、国語科と理科で「これまでの学びを活かし活用する」を意識した授業でした。教科間の関連を明確にし、学んだことを活用し様々な場面で発揮できるように工夫されていました。

参加者は別室にてモニターを通して授業を参観しましたが、カメラワークが生き、児童の学習の様子が確実に伝わる形態でした。

【導入】…学習課題の明確化と効果的な掲示物

理科	国語
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを有効活用し、児童が学習内容に対して意欲を持って取り組むことができていた。 →謎の水溶液の正体を解き明かすための動画作成。 (児童の学習意欲がかなり高まった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに読み取ったことを視点ごとに表に整理されており、単元のまとめで書く紹介文を様々な内容で紹介していた。 →興味に合わせて書くことの大切さを確認し、ゴールイメージをはっきりとさせていた。 

【展開】…試行錯誤や自己決定をしながら問題解決に向かう学習の場の設定

理科	国語
<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に『謎の水溶液X』というワードが入ることで、児童は既習事項を生かしながら、フローチャートを用いながら多くの考え方を導き出そうと努力していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の興味に合わせて大事な言葉や文を抜き出し、友達の考えと比較しながら自分の考えを精選している姿が見られた。 →同じ視点の児童と交流することで更に考えを深めることができた。 

○ある児童が他の児童の考えを説明するなど、学習活動への工夫が随所に見られた。また、それに対する教師の言葉かけが適切で、児童の学習に対する自己肯定感が高まる様子が見られた。

【終末】…課題に正対し、次時へとつなげるまとめ

理科	国語
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で予想した仮説と友達の仮説を比べ、検証に向けて考えを深めることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との考えを比較し、違いがあることやそれぞれの考えの良さについて気づき、自己の考えを深めることができていた。

○1単位時間におけるタイムマネジメントがしっかりとされており、児童のふり返りの時間が確保されていました。
○今日の活動を次時にどう生かしていくのかをはっきりと示し児童への意欲付けがしっかりとされていました。

学校全体で一貫した学習規律や学習ツール、そして計画的な振り返りの設定を意識していました。

ICT教育実践例の紹介

今後は全国的にGIGAスクールの環境整備が進む中で、ICTを活用した授業実践の社会的要請が高まってきています。ここでは、釧路管内各町村における、ICT教育の実践例を紹介いたします。

○浜中町立散布中学校 ～「あさり島活動」の実践を通して～

浜中町立散布中学校では、総合的な学習の時間の活動の一環として、「あさり島活動」があります。

毎年、5月に漁業協同組合の協力のもと、全校生徒があさりを掘る体験を行っています。本校は漁協より島を貸与されており、そこであさを掘り、外敵を駆除し、稚貝をまくなど、あさり島の環境保全のための活動をしています。

その様子を、秋の文化祭で発表するために、デジカメやドローンで撮影し、データをPCやiPadにインストールして、生徒たち自身の力で編集しています。情報機器の活用が苦手な生徒も、得意な生徒に協力をしてもらいながら、発表する練習を通して、コミュニケーション能力やICT活用技術の習得を図っており、例年、教師の手を借りずとも、自分たちでどんどん作業を進めていく姿が見られています。

散布の沼はジブリ作品の映画の舞台にもなっており、ドローンの上空からの映像が雄大で美しく、見る者を圧倒していると、地域の方からの評判になっています。

「地域に根差した教育」も散布のテーマであり、ドローンはそのためにも重要な役割を果たしています。



読者から

■コロナ禍の対応に追われた令和2年も、あと数日で終わります。今年は「当たり前」だったことが、「当たり前ではなくなった」ことが多々あった1年でした。

■釧研も活動再開後、何か管内教育に寄与できることはないかとの発想から、301号では「研究主題一覧」を、本号では「公開研の紹介」「ICT教育実践例」を掲載しました。少しでも、管内教育推進の一助になればと願っています。

■皆様におかれましては、体調管理には十分に留意され、良いお年をお迎えください。（事務局）

★釧路教育研究所★ 所報302号

発行日：令和2年12月

発行所：釧路教育研究所

発行者：福原克洋

E-mail info@senken.net

URL <http://senken.net/>

